

## 平成29年第18回福岡県教育委員会会議（定例会）会議録

### 1 開催日時

平成29年10月12日（木）14時00分から14時57分まで

### 2 場所

福岡県庁4階 教育委員会会議室

### 3 出席委員

清家渉、久保田誠二、宮本美代子、前田恵理、木下比奈子、  
城戸秀明（教育長）

### 4 欠席委員

なし

### 5 出席事務局職員

教育次長 吉田法稔、理事 松尾圭子、総務部長 辰田一郎、  
教育企画部長 木原茂、教育振興部長 原田靖、総務課長 日高公德、  
財務課長 山口洋志、文化財保護課長 井手優二、企画調整課長 高田裕康、  
社会教育課長 谷本理佐、教職員課長 平川真一、施設課長 松永一雄、  
高校教育課長 相原康人、義務教育課長 田中直喜、  
人権同和教育課長 木下尊雅、体育スポーツ健康課長 寺崎雅巳

### 6 傍聴者等数

1名

### 7 会議

14時00分、清家委員長が開会を宣言し、本日の議題について非公開発議の有無の確認を行った。

非公開の発議なく全て公開と決定された。

#### （1）その他

- ・9月定例県議会について

城戸教育長から、9月定例県議会における教育委員会関連の代表質問及び一般質問に対する以下の答弁要旨について説明があった。

（代表質問）

- ・ 県内文化財の被災状況について
- ・ 被災地への支援と今後の取組みについて
- ・ 「高校教育改革」への県教育委員会及び各県立高校の対応について
- ・ 大学入試改革への対応について
- ・ 基礎学力が不足している者等への対応について
- ・ 県立学校の個別施設計画について
- ・ 県教育委員会と学習支援センターとの協定締結について
- ・ 県立高校における課外授業について
- ・ 県立高校における入院生徒への学習支援について
- ・ 医療的ケア児の通学支援について
- ・ 全国学力調査の結果と課題について
- ・ 中学校における生徒及び英語科教員の語学力について
- ・ 高校教育における語学力の向上について
- ・ 被災地の児童生徒への支援について、防災教育について
- ・ 「教育の日」の制定について 等

(一般質問)

- ・ 高度な医療的ケアを必要とする子供に対する教育環境の整備と保護者負担の軽減について
- ・ 児童生徒の読書時間の現状と学力の関係について
- ・ 福岡県子ども読書推進計画に基づいた事業の推進について
- ・ 小・中学校の臨時免許状の授与について
- ・ 本県の公立中学校において講師が見つからず1学期に授業が行われなかったことについて
- ・ 学校に留守番電話を設置することについて
- ・ 世界遺産の保存・活用に果たす県教育委員会の役割について
- ・ 教員の負担軽減について
- ・ 消費者教育について 等

次いで、清家委員から、高校になると福岡県は学力が上がり、福井県などは下がる理由について質問があった。

これに対して相原高校教育課長から、本県の大学進学率は全国に比べて高いのに対して、福井県などはそれが低いことが原因の1つとして考えられるとの説明があった。

また、城戸教育長から、福岡県は私立高校が多く、それに対する公立高校教員の危機感の違いも理由として考えられるとの説明があった。

次いで、木下委員から、学習支援センターに県立高校の生徒の受け入れを依頼するにあたって必要となる費用について質問があった。

これに対して、相原高校教育課長から、学習支援センターは私学協会の加盟校の分担金と県の私学振興課からの補助金により運営されているが、現状では生徒受け入れの余裕がある範囲内で県立高校生徒の受け入れがなされており、県立高校生徒の利用が拡大し、許容人数を超えることとなるまでは、追加の費用はかからないとの説明があった。

次いで、宮本委員から、美術の教員の欠員が生じ、1学期に授業ができなくなるについて県教育委員会としていつ把握したのか質問があった。

これに対して、平川教職員課長から、新年度が始まって早々に把握していたこと及び美術や技術・家庭などコマ数が少ない教科は教員確保が困難であるので、早めに対処することによりこのような事態を繰り返さないようにしていきたいとの説明があった。

次いで、清家委員長から、医師や看護師以外であっても、所定の講習を受けた者であれば医療的ケアを実施できることになっているが、高度な医療的ケアが必要な子どもへの対策として、看護師と講習を受けた職員のどちらを増員して対応するのかとの質問があった。

これに対して、田中義務教育課長から、危険性を伴うことや、教員の精神的負担も考慮して、看護師による実施を考えているとの説明があった。

清家委員長が閉会を宣言し、14時57分閉会した。